

神社の杜(三十九)

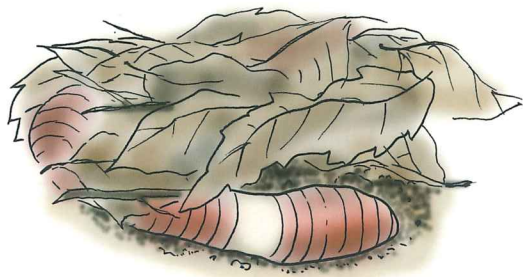
御岳ビジターセンター

片柳 茂生

巨大な蚯蚓 (ミミズ)

人には、誰しも一つや二つ嫌いな、あるいは苦手な生き物がいることだろう。私の身近にも蛇が大の苦手という人がいる。いい大人である。しかしその気持ち解らないでもない。なぜなら私にだって苦手な生き物はいらる。それはヒキガエルである。他の蛙は何でもないのだが、ヒキガエルだけはどうも苦手である。体中にあるイボイボ、「なんだこいつは」とでも思っているのか、半分閉じた目で道の真ん中にいるのも気に入らない。速くどこかに行ってくれと思うのだが、動作が鈍いのか中々動かない。ヒキガエルが怖いのではない、気持ち悪いだけなのだ。

そんな気持ちが悪い生き物に、ミミズをあげる人もいるだろう。ヌルヌルした体、伸びたり縮んだりする体、



さらにはちよつと触ると体中をくねらせ飛び跳ねるように動く動作などが気持ち悪い原因なのだろう。ミミズの語源は「目見え」がメメズにそしてミミズに変化したものと言われている。確かにミミズには目がなく、どつちが頭だかお尻だか解らない。それも原因の一つかも。

嫌がる人が多いミミズは、土を食べ、その中にある有機物や微生物を消化吸収し、不要な物を粒状の糞として排出する。それが土を肥やす作用となり、作物を作る人には大事な生き物として扱われている。ミミズにおしっこをかけるとチンチンが腫れると昔から言われているのは、田畑に養分を与えるミミズへの尊敬と感謝に由来する迷信だとも言われて

いる。そんなミミズだが、日本にはなんと百種類以上存在する。中にはとても大きなミミズがいて、ハツタミミズといわれる物は体長が60cmにもなる。関東で最大のミミズは、イヅカミミズという種類で、体長は40cm、50cm位、太さは大人の親指くらいある。

このイヅカミミズは御岳山でも目にするときがある。主に梅雨から秋の長雨にかけてが多いのだが、雨の降っているときや大雨の降った後などに見かけることが多い。普段は、山の斜面で落ち葉を食べて暮らしているのだが、雨で斜面から土と一緒に流されてしまったのだから、舗装された道の上をゆつくりと動いているのを見かける。知らなければ、あまりの大きさにほんとはミミズ?と疑ってしまうだろう。

このイヅカミミズには、絶対におしっこをひっかけてはいけません。普通のミミズより、もっとひどい事になるかもしれないから。くわばら、くわばら。

表紙写真 鈴木 新吾

「スカイ・ツリー」

標高929mから眺める高さ634mの大木。昼間と夜では別の姿を見せます。秋を迎え空気が澄み始めると、一層とその姿を望む事ができます。

あとがき

本年の夏は雨が少なく、作物や山々の自然には、乾いた厳しい夏となりました。しかし山の木々・草花は頂垂れながらも、少ない地中の水分を吸い込み、美しい花を咲かせ、実りを付けました。九月に入り少ない雨がもたらされると、その背をびんと伸ばし、大空を誇らしく見上げています。抗わず・逆らわず・見えぬ足下での努力を続け、美しい花と実を付ける。自然と共に歩んできた日本人の心の中にある種は、皆様の中で根を伸ばしている事でしょう。大泉辛酉講演元 加藤友久様 齋藤 眞一先生、ビジターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございました。

平成二十四年九月三十日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四六(七六) 八五〇〇
FAX 〇四六(七六) 九七四一

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashinotakejinja.jp/